

A vertical banner on the left side of the slide features a photograph of Earth from space, showing the horizon and a bright sun. The text 'EARTH-1 STAGE' is written vertically in white, bold, sans-serif font over this image.

2014年度

第3四半期決算
投資家様向け説明会

2015年1月29日
オムロン株式会社

目次

1. 発表のポイント	P. 2
2. 3Q累計実績	P. 4
3. 通期見通し	P. 13
4. 企業価値向上表彰	P. 20
参考資料	P. 24

発表のポイント

発表のポイント



発表のポイント

- ・ **3Q累計実績は上期に続き、大幅増収増益を達成。**
制御機器事業が上期に続き、好調に推移。
全社では①円安による押し上げ、②経費執行の繰り延べ、などによる効果があり、営業利益が増加。
- ・ **通期見通しを据え置く。**
4Qは制御機器事業が好調を持続する見込みである一方、環境関連事業、バックライトは一時的な需要悪化を想定。
ボラティリティの高い事業の影響はあるが、円安による押し上げ効果があり、営業利益への影響は限定的。
なお、成長のための投資は計画通り実行する。

3Q累計実績

3Q累計実績



3Q累計実績

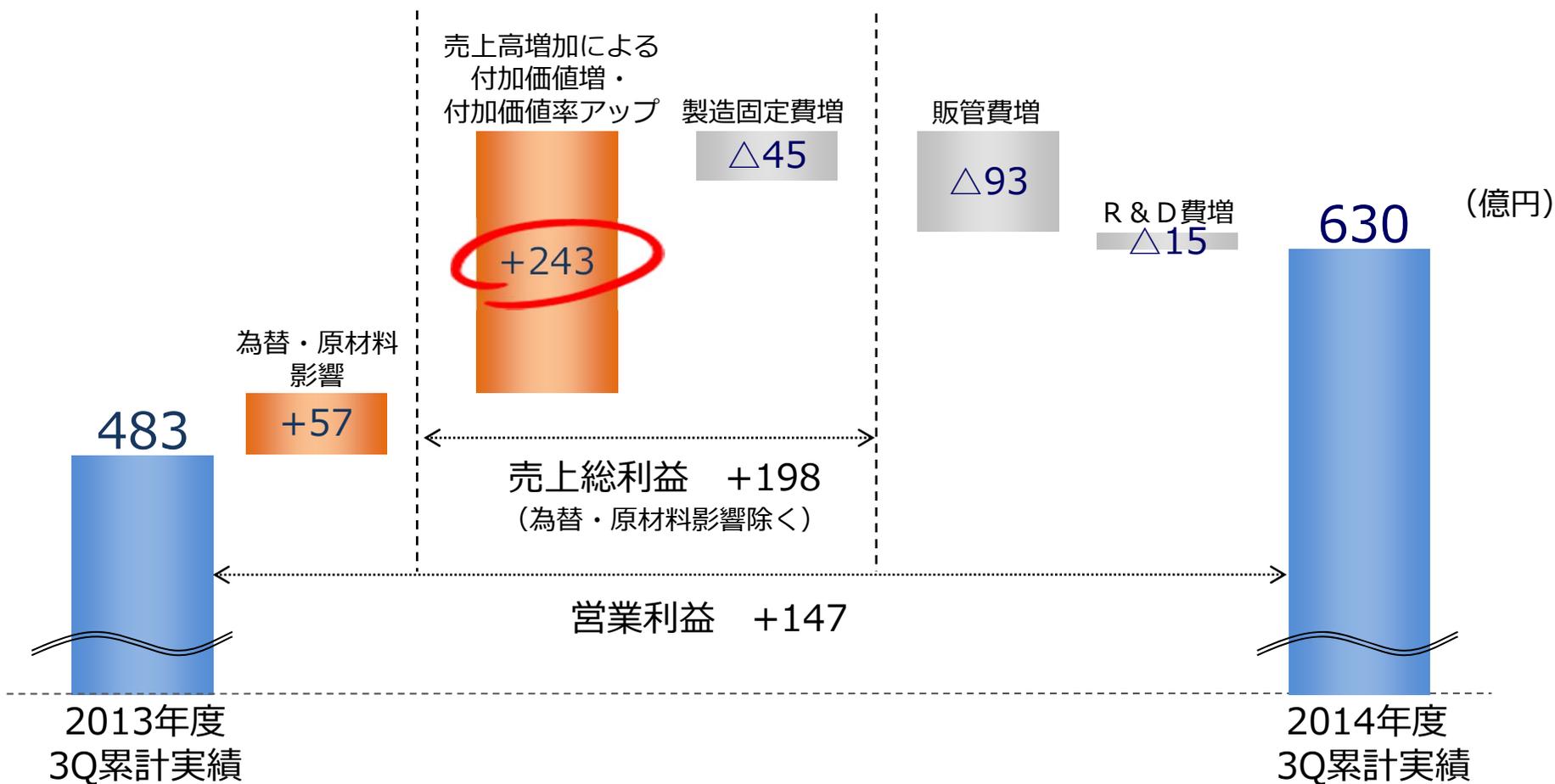
大幅増収増益、営業利益率は10%超を達成

(億円)

	2013年度 3Q累計実績	2014年度 3Q累計実績	前年同期比
売上高	5,524	6,143	+11.2%
売上総利益 (売上総利益率)	2,138 (38.7%)	2,439 (39.7%)	+14.1% (+1.0P)
営業利益 (営業利益率)	483 (8.8%)	630 (10.3%)	+30.3% (+1.5P)
税引前四半期純利益	464	655	+41.2%
四半期純利益	339	493	+45.2%
USDレート (円)	99.3	107.2	+7.9
EURレート (円)	132.1	140.5	+8.4

営業利益増減分析（前年同期比較）

売上増加による付加価値増・付加価値率アップにより、増益を達成



3Q累計 事業セグメント別 売上高

制御機器事業および その他事業が大幅増収を牽引

(億円)

	2013年度 3Q累計実績	2014年度 3Q累計実績	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	2,122	2,446	+15.3%
電子部品事業 (EMC)	729	756	+3.7%
車載事業 (AEC)	923	1,009	+9.3%
社会システム事業 (SSB)	457	480	+5.1%
ヘルスケア事業 (HCB)	666	735	+10.3%
その他事業	581	678	+16.8%
本社他 (消去調整含む)	46	39	△16.2%
合計	5,524	6,143	+11.2%

(参考) 3Q 事業セグメント別 売上高

(億円)

	2013年度 3Q実績	2014年度 3Q実績	前年同期比
制御機器事業 (I A B)	742	834	+12.5%
電子部品事業 (E M C)	241	255	+5.7%
車載事業 (A E C)	329	353	+7.5%
社会システム事業 (S S B)	165	171	+3.4%
ヘルスケア事業 (H C B)	238	280	+17.8%
その他事業	196	192	△2.1%
本社他 (消去調整含む)	16	12	△24.4%
合計	1,927	2,098	+8.9%

3Q累計 事業セグメント別 営業利益

制御機器事業が大幅増益を牽引

(億円)

	2013年度 3Q累計実績	2014年度 3Q累計実績	前年同期差
制御機器事業 (I A B)	283 (13.3%)	403 (16.5%)	+120 (+3.1P)
電子部品事業 (E M C)	68 (9.3%)	70 (9.3%)	+2 (±0.0P)
車載事業 (A E C)	70 (7.6%)	71 (7.0%)	+1 (△0.6P)
社会システム事業 (S S B)	△ 19 (-)	△ 10 (-)	+9 (-)
ヘルスケア事業 (H C B)	64 (9.7%)	58 (8.0%)	△6 (△1.7P)
その他事業	71 (12.2%)	84 (12.3%)	+13 (+0.1P)
本社他 (消去調整含む)	△ 54	△ 46	+8
合計	483 (8.8%)	630 (10.3%)	+147 (+1.5P)

(参考) 3Q 事業セグメント別 営業利益

(億円)

	2013年度 3Q実績	2014年度 3Q実績	前年同期差
制御機器事業 (I A B)	104 (14.1%)	136 (16.3%)	+31 (+2.2P)
電子部品事業 (E M C)	29 (11.8%)	30 (11.9%)	+2 (+0.1P)
車載事業 (A E C)	27 (8.1%)	29 (8.3%)	+3 (+0.2P)
社会システム事業 (S S B)	△ 1 (-)	0 (-)	+2 (-)
ヘルスケア事業 (H C B)	21 (8.6%)	19 (6.8%)	△ 2 (△1.9P)
その他事業	13 (6.7%)	5 (2.5%)	△ 8 (△4.2P)
本社他 (消去調整含む)	△ 17	△ 20	△ 3
合計	176 (9.1%)	200 (9.5%)	+24 (+0.4P)

連結貸借対照表

	2014年3月末	2014年12月末	(億円) 前年度末差
流動資産	3,965	4,281	+316
有形固定資産	1,356	1,498	+143
投資その他の資産	1,226	1,259	+33
資産合計	6,547	7,038	+491
流動負債	1,627	1,658	+31
固定負債	592	463	△130
負債の部合計	2,219	2,121	△98
株主資本	4,305	4,892	+587
非支配持分	23	25	+2
純資産の部合計	4,328	4,917	+589
負債及び純資産合計	6,547	7,038	+491
株主資本比率	65.8%	69.5%	+3.8P

連結キャッシュ・フロー計算書

**FCFの減少は①年金基金への拠出、②NS社買収による
財務CFの減少は自己株式取得による**

(億円)

	2013年度 3Q累計実績	2014年度 3Q累計実績	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	486	426	△59
投資活動によるキャッシュ・フロー	△214	△279	△65
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	272	148	△125
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74	△289	△215
四半期末の現金残高	800	831	+32
設備投資	226	256	+30
減価償却費	183	205	+22

通期見通し

通期見通し



4Q エリア別事業環境認識 (2Q決算時との比較)

一部の業界、エリアで減速感あるも、全体では概ね横ばい

<国内>

大企業を中心に設備投資は堅調、太陽光発電は市場の変化により、一時的に停滞

<海外>

米州 : 米国は個人消費や設備投資の拡大など総じて堅調推移
一方、ブラジルは景気低迷により低調

欧州 : 全体ではほぼ横ばい、ロシアなどでは景気低迷により低調

中国 : 不動産関連投資の冷え込みにより、一部に減速感あり

アジア : タイ、インドネシアは横ばい、インドでは景況感が上向く
韓国は減速

4Q 事業セグメント別事業環境認識 (2Q決算時との比較)

制御機器事業 (I A B)	<p>国内：自動車は堅調継続、半導体は回復傾向、全体では緩やかな上昇 海外：中国は減速感あり、米州は北米を中心に好調継続、 欧州は横ばい、アジアは韓国が減速傾向で他のエリアは横ばい</p>
電子部品事業 (E M C)	<p>家電：国内は消費増税後の消費低迷継続、欧州・中国は堅調継続 車載：総じて大きな変化なし</p>
車載事業 (A E C)	<p>国内：軽自動車は好調を持続するも、普通自動車は前年割れが続く 海外：北米は好調持続も、中国・アジアで減速感、その他は大きな変化なし</p>
社会システム事業 (S S B)	<p>駅務関連：総じて堅調 環境関連：PV市場の変化による一時的な停滞</p>
ヘルスケア事業 (H C B)	<p>国内：家庭向けは堅調、病院向けは病院側の収益減、経費圧縮により停滞 海外：ロシアはルーブル暴落を受け低調、他のエリアは横ばい</p>
その他事業	<p>環境：PV市場の変化による一時的な停滞 バックライト：一部客先の機種切り替えにより一時的に需要が減少</p>

通期見通し

通期見通しを据え置く

(億円)

	2013年度 実績	2014年度 見通し	前年度比
売上高	7,730	8,350	+8.0%
売上総利益 (売上総利益率)	2,972 (38.5%)	3,310 (39.6%)	+11.4% (+1.2P)
営業利益 (営業利益率)	681 (8.8%)	840 (10.1%)	+23.4% (+1.3P)
税引前当期純利益	620	845	+36.3%
当期純利益	462	625	+35.3%
USDレート (円)	100.1	105.5	+5.4
EURレート (円)	134.0	139.2	+5.2

(参考) 通期 事業セグメント別 売上高

(億円)

	2013年度 実績	2014年度 見通し	前年度比
制御機器事業 (IAB)	2,917	3,210	+10.0%
電子部品事業 (EMC)	977	1,015	+3.9%
車載事業 (AEC)	1,266	1,315	+3.9%
社会システム事業 (SSB)	827	845	+2.2%
ヘルスケア事業 (HCB)	893	1,000	+12.0%
その他事業	789	915	+15.9%
本社他 (消去調整含む)	61	50	△16.5%
合計	7,730	8,350	+8.0%

(参考) 通期 事業セグメント別 営業利益

(億円)

	2013年度 実績	2014年度 見通し	前年度差
制御機器事業 (I A B)	388 (13.3%)	500 (15.6%)	+112 (+2.3P)
電子部品事業 (E M C)	87 (8.9%)	92 (9.1%)	+5 (+0.2P)
車載事業 (A E C)	91 (7.2%)	89 (6.8%)	△2 (△0.4P)
社会システム事業 (S S B)	56 (6.7%)	62 (7.3%)	+6 (+0.6P)
ヘルスケア事業 (H C B)	75 (8.5%)	72 (7.2%)	△3 (△1.3P)
その他事業	87 (11.0%)	105 (11.5%)	+18 (+0.5P)
本社他 (消去調整含む)	△ 103	△ 80	+23
合計	681 (8.8%)	840 (10.1%)	+159 (+1.3P)

(参考) 経営指標

	2013年度 実績	2014年度 見通し	前年度比
売上総利益率	38.5%	39.6%	+1.2P
営業利益率	8.8%	10.1%	+1.3P
ROIC	11.3%	13%超	-
ROE	11.6%	13%超	-
EPS	209.8円	285.4円	+75.6円

企業価値向上表彰

企業価値向上表彰



企業価値向上表彰

東京証券取引所主催の「企業価値向上表彰」において大賞を受賞



上場会社表彰

企業価値向上表彰 大賞

OMRON
Sensing tomorrow™

オムロン株式会社

表彰理由

「ROIC経営」が高く評価され、大賞を受賞**<表彰理由※>**

資本効率を表す経営指標であるROIC（投下資本利益率）を重要指標に位置付けた

「ROIC経営」の推進を掲げ、その実現に向けて組織全体で取り組むなど、

「企業価値向上経営」を特に高いレベルで実践していると認められた。

<評価ポイント※>

1. 投資者視点を意識した経営目標を掲げて投資者との対話を深めている。
2. 経営目標の達成に向けてきめ細かな事業ポートフォリオの管理を実践している。
3. 企業価値向上に関する経営管理の仕組みを組織に深く落とし込んでいる。
4. 企業価値向上の取組みの成果が現れている。

※東京証券取引所ニュースリリースから抜粋

OMRON

Sensing tomorrow™

参考資料

参考資料



為替・原材料前提

4Qにおける為替、原材料の前提は期初計画どおり

4Qにおける前提

為替： USD・・・100円
EUR・・・135円

1円変動による影響額（通期）

	売上高 影響額	営業利益 影響額
USD	約31億円	約4億円
EUR	約8億円	約4億円

原材料： 銀・・・72,000円/kg
銅・・・760円/kg

価格変動による影響額（通期）

	変動額	営業利益 影響額
銀	1,000円/kg	約1億円
銅	10円/kg	約1億円

ROICの計算式

<連結貸借対照表>

科目	年 月末
資産の部	
流動資産	
...	
...	
有形固定資産	
...	
投資その他の資産	
...	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
...	
...	
純資産の部	
株主資本	
...	
...	
...	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

$$ROIC = \frac{\text{当期純利益}}{\text{投下資本}}$$

投下資本 = 純資産 + 有利子負債

※投下資本は、前期末実績および当期の各四半期毎の実績・見通しを平均し算出

EARTH-1 STAGE (2014~2016年度)における想定資本コスト6%

ROIC逆ツリー展開

現場



KPI

注力業界/エリア 売上
 新商品/注力商品 売上
 売価コントロール
 変動費CD額・率
 失敗コスト率

一人当たり生産台数
 自動化率 (省人数)

売上高人件費率

在庫月数
 不動在庫月数
 債権/債務月数

設備回転率
 (1/N自動化率)

改善ドライバー

売上総利益率

付加価値率

製造固定費率

販管費率
 R&D率

運転資金回転率

固定資産回転率

ROS

投下
 資本
 回転率

ROIC

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績見通し等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、

- (i) 当社の事業領域を取り巻く日本および海外の経済情勢
- (ii) 当社製品・サービスに対する需要動向
- (iii) 新技術開発・新商品開発における当社グループの能力
- (iv) 資金調達環境の大幅な変動
- (v) 他社との提携・協力関係
- (vi) 為替・株式市場の動向
- (vii) 事故・震災など

があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

3. 当資料は「平成27年3月期 第3四半期決算短信」に準拠し作成しています。

差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

< IRに関するお問い合わせ >

オムロン株式会社
経営IR室 経営IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp